滝川高校ＳＳＨ通信

発行：２０２０年１月５日　特別号

道外研修〔宮城県〕1日目

報告者：１年Ｆ組 髙橋 賢新 ＆ 高橋 奈瑠

～ 伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンター ～

東北巡検の初日、私たちはラムサール条約に登録されている伊豆沼を訪れ、多賀城高校の生徒とともに、渡り鳥や伊豆沼周辺の環境についての学習を行った。伊豆沼は、秋から冬にかけて、渡り鳥の越冬地となるため、沼には、マガン・ヒシクイ・オナガガモ・オオハクチョウなど、たくさんの種類の渡り鳥を観察することができた。

また、伊豆沼の環境教育施設である「伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンター」にて、沼を守っていくための外来種駆除や、水質改善についての講義を聴かせていただいた。外来種駆除において、むやみに殺すのではなく、その生態を詳しく調べたうえで、最小量減らしていて、どんな命でも大切にすることは大事だと感じた。



図１　サンクチュアリーセンター内での講義
公益財団法人・宮城県 伊豆沼・内沼環境保全財団（総括研究員・農学博士・環境部門技術士）嶋田哲郎 氏より、「伊豆沼・内沼の自然と保全」講義の様子。



図２　「朽ち木崩し」実習の様子
アカガネオサムシ・キタカブリ・ムカデなど色々な昆虫と、その幼虫を観察することができた。

沼の近辺で朽木の内部で冬眠している生物を調査する実習もさせていただいた。朽木を自分たちで崩して、中にいる生物を捕獲し分類、観測を行った。たくさんの種類の生物を発見することができた。施設の方は、沼の環境を守っていくにあたって、沼の内部だけでなく、それを取り巻く生態系をしっかり調べ、改善することが必要とおっしゃっていた。沼一つを守っていくだけでも、たくさんの労力が使われていることを知ることができた。

多賀城高校生との交流

サンクチュアリセンターでの実習の後、宿泊場である伊豆沼交流センターで多賀城高校生と交流した。多賀城高校は本校と同じくSSHに指定されており、「防災・減災をイノベーションする科学技術人材育成のためのプログラム開発」という研究課題を掲げており、普通科に加え、災害科学科がある。そんな多賀城高校の生徒たちとそれぞれの地方の特色、高校の校風や行事について、また、現在研究していることなどを発表しあった。発表後、自己紹介も行なった。



図３　多賀城高校生との交流
夕食後、１日目の研修に参加した多賀城高校生１１名と交流を実施した。



図４　多賀城高校生の発表

多賀城高校の生徒は発表するときアドリブを入れたり、笑いをとったりと私たちが聞きやすいような、質問しやすいような空気を作り出す発表をしていた。これから私たちも課題研究や、その他さまざまな機会でたくさんの人に発表することがあると思うが、その時には今回聞いたような発表ができたらいいと思った。

全体的な交流の後、私たちは部屋で、発表の時は話さなかった「地方の方言や習慣」について話した。東北と北海道では、まだ距離が近いのもあるのか、北海道特有の方言だと思っていた「いずい」や「なまら」があちらでも使われていて驚いた。また、話を聞くうちに微妙なイントネーションの違いがあり、面白かった。このように違う地域の高校生と交流することは初めてで、貴重な体験をさせてもらった。



図５　交流センターでの食事
夕食と翌日の朝食を一緒に取った。早朝のマガンのねぐら立ちも一緒に観察を行った。